



R I. 第2620地区 静岡第2分区  
三島西ロータリークラブ

# 週報

第1903号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F  
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352  
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル  
TEL (055) 972-2122  
会長 渡辺 雅晃 幹事 黒田 一



広重版画より 三島 朝霧

## 第1966回例会

2013.2.16晴

静岡第2分区 I M

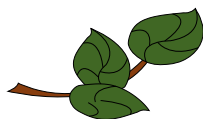
ホストクラブ：三島RC

### 会長挨拶

三島RC会長 小沼孝次君

今日2月16日は、三島で鎌倉時代より作成されている三嶋暦によりますと、旧暦正月七日・五節句のひとつの人日（じんじつ）に当たります。人日に七草粥を食べ祝いますと、無病息災で長生きができるとのこと。今日は七草粥の用意はありませんが、後程七草粥をアルコールに替えて祝い、皆様の健康をご祈念申し上げたいと思います。

さて、昨年2月御殿場ロータリークラブのIM例会におきまして三島RCの次年度IM開催を発表させていただきましてから1年、綾部実行委員長の下で準備を進めてまいりました。講演会の内容は計画当初より米山梅吉翁に焦点をあてることにしました。それは入会年次の若い会員の方々に、「米山梅吉さんて誰?」「米山記念館て何?」との疑問が有るやに見受けられたことからです。そうした折りに、幸運にも三島北高等学校の郷土研究部が「米山梅吉翁の業績」と題して調査・研究し県の高文祭で最優秀賞に輝いていることを知りました。高校生の視点で郷土の偉人、梅吉翁を見直すのも新しい試みではととらえ、発表をしてもらうことになっております。先の地区大会で千玄室様は「何事も基本に返り学び直すことが重要」とおっしゃられています。日本のロータリークラブの創始者、米山梅吉翁の業績を再確認することで、はたして現在のロータリーに「奉仕の精神」が引き継がれているのかどうかを、今日は入会年次の若い方だけでなく、皆様と一緒に考えたいと思います。



### 出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	34/50	68.00%	39/50	78.00%
今回	31/48	64.58%	会員総数	54名

欠席者 石井(彰)君、石井(良)君、石川君、亥角君、小野(金)君、窪田君、佐々木君、椛山君、鈴木(正)君、諏訪部(照)君、千葉君、登崎君、長田君、橋本君、花房君、矢岸君、渡邊(芳)君

### ガバナー補佐挨拶

ガバナー補佐 稲葉良弥君

インターシティとは都市Cityに接頭語のinterが付き、形容詞のintercityとなり“都市と都市の間の”又は“都市間の”という意味になります。そして、meetingと結ぶと“都市間どうしの会議”ということになります。

さて、私達は今回「米山梅吉翁の業績について」を取り上げてintercity meeting・IMの勉強タイトルにいたしました。このIMを開くにあたっての高野孫左エ門ガバナーの意向は、①世界平和について又は②職業奉仕についてのどちらかを選んで頂きたいとのことでしたが、私は“米山梅吉翁について”勉強することはこの“世界平和”と“職業奉仕”の両者を満足させることだと判断いたしました。通り一遍の米山梅吉考でしたら、多くの方は「もう知っている」又は「新鮮みが無い」とお思いでしょうが、今回は少し違います。三島北高校の郷土研究部の生徒さんたちが、研究・調査・資料集めと苦勞の末の成果を“物語の語り部”となって披露してください。その内容の多くは「よくここまで調べつくした」と思うほど、教えられることが多々あります。なお、この三島北高郷土研究部は、平成24年8月の全国郷土研究発表会の最優秀賞、11月の県高校総合文化祭郷土研究部門の最優秀賞、12月の地域伝承文化に学ぶコンテストの最優秀賞と3冠を勝ち取っております。

本日、第2部の記念講演ではこの“3冠王”の偉業にも「なるほど」と納得して頂けると幸いです。

2012～2013年度  
国際ロータリー会長  
田中 作次

奉仕を通じて平和を

